

第2回 伊豆市総合計画審議会 会議要録

日 時 令和7年8月13日（水）午後7時00分～

場 所 本庁舎別館大会議室

出席者 ○伊豆市総合計画審議会委員（12名）

山田健次会長、高橋いづみ副会長、青木加奈委員、浅田恵子委員、飯田正志委員、木口博子委員、酒井新二委員、櫻井美鈴委員、佐藤雅彦委員、勝呂義衛委員、鈴木智治委員、服部保江委員

1. 開会

2. 会長挨拶

資料が昨日届いた。郵便物の到着が遅く、市内でも最低5日はかかる。今後、資料の送付に当たっては注意いただきたい。本日はよろしくお願いします。

3. 議事

（1）基本構想（案）について 【資料1、2】

資料1～2について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）

資料1の変更について意見はあるか。特に問題なければ、このまま進めたい。

事務局へ、承認をとる必要はないか。

（事務局）

その認識でよい。

（会長）

目指すまちのテーマについて、本日決定するという認識でよいのか。

（事務局）

本日決定する方向でお願いしたい。

（会長）

この内容自体を変えることは難しいと思うがいかがか。

（委員）

守りながら変わり続けるまちとあるが、誰に対して掲げているのかがわからない。また、誰の心に響くのかがわからない。おそらく、市民に対して掲げているテーマではあるとは思うが、この内容で心が動く人がいるのか疑問である。

参考資料2を見て、10代や20代の若者が愛着を感じていないことや、市においては子育ての政策を実施しているが、女性が魅力を感じられず市外へ出ていくことにつながってしまっていることがわかる。この結果を無視してテーマを決めるに疑問がある。

繰り返しになるが、このテーマで若者や女性がこのまま市に残ってくれるのか疑問である。また、誰に対するメッセージなのかを明確にする必要があると考える。

（委員）

何を守り、何を変えるのかがわからない。主語がなく、日本語としておかしい。

守ることと変えることは違うことであり、相反する言葉が並んでいる。これを設定した考えを教えてほしい。

(事務局)

魅力ある地域や地域の活力、地域資源や資産を守りながらそれらを成長させていく、また、魅力を最大限に引き出し、魅力を活かしていくことを考え、「守る」と「変わり続ける」という表現を入れたところである。

(会長)

テーマについて、委員へ宿題として出し、検討いただく方法に変更してもよいか。

(事務局)

問題ない。

(委員)

アンケートで「守りたいものは何ですか」というような設問はなかったと思うがあつたか。

あいまいなテーマとなっているため、市民が何を守りたいのかをまずは把握し、明確にしないと、あいまいで抽象的な内容になつてしまふと考える。

(会長)

アンケートから見えてくるところもある。このまちに夢がないと人が出て行つてしまふため、総合計画の中で、夢のあるものを掲げていくべきと考える。

(委員)

守ると変わらは矛盾している。アンケートからわかることとして、若者が伊豆市に誇りを思えるものが何なのか、という視点が欠けていると考える。

私自身、アンケートに回答したと記憶している。どのようにすれば若者が伊豆市のこと自慢できるかであつたり、伊豆市に残りたいと考える理由を深掘りする必要があるのではないかと考える。

(会長)

審議会を今後数回開催するが、各回 1 時間から 1 時間半の審議予定をしている。発言時間を十分に確保することも難しいと考えるため、キャッチコピーについては宿題として出してよいか。

次回の審議会はいつ頃開催予定か。

(事務局)

その流れでよい。次回は 9 月 19 日である。

(会長)

それでは今月中に事務局へ案を出していただき、その後、事務局と調整する。それでよいか。

(副会長)

資料が直前に到着したこともあり、皆さまで考える時間を確保することは必要であると考える。

(委員)

実現しなくてもよいからキャッチフレーズは夢のある内容にしないと若い人は戻つてこない。夢を掲げていくべきである。

(会長)

良いものを作りたいと考えるので、皆さまの力を借りて進めていきたい。

(委員)

キャッチフレーズはキャッチャーな言葉を考える人が考えれば良いと考える。キャッチフレーズではなく、目指すまちのテーマの内容をもう少し考えたほうが良いのではないか。例えば文言を付け足すなど。そのような方向でもよいか。

(会長)

みんなで納得できないと文章化することはできないが、せっかく委員として来られているため、意見はいただきたい。それでは、今月中に皆さん、案を出していただきたい。

(2) 基本計画（案）について【資料3・4・5】

資料3・4・5について事務局より説明。以下意見交換。

(会長)

次回も基本計画について審議する。本日は深掘りするのではなく、概略についてご意見をいただきたい。基本的にはこれまでの取組を続けながら、進めていく内容となっている。一人3分程度でご意見をいただきたい。

(事務局)

重点目標ごとにご意見をいただけたとありがたい。

(会長)

それでは重点目標1について、意見をいただきたい。

(委員)

子育て支援に関しては良いことがたくさん記載されている。

一方で、なぜ子どもが産まれないのかを考えるべきで、そもそも子どもがいないと子育て施策は展開できない。少子化に対する計画がないことが少し不安である。

(委員)

とても良いことが記載されている。障害やグレーゾーンの子に対する相談やサポートができる内容が入っていると、仕事を続けながら子育てを安心してできると考える。子どもが減っている状況を明確にしていいてもよいのではないか。

(会長)

20代や30代の方と話をするが、出会いの場がないという意見を聞く。子どもがいない理由として、結婚をしないから、出会いがないからなど、いろいろな要因が考えられる。晩婚化も進んでおり、周りを見ても若い人がいない現実がある。

(委員)

若い人は余裕がないと考える。若い人の所得に対する不安も含め、若い人の意識などを行政としてしっかりと把握し、結婚し子どもを産んでもらうような対策を考えてもらいたい。

我々の時は子育て支援は何もなかったが、今は子育て支援は充実している。結婚や子育てが楽しいということを教育していかなければならないと考える。

(委員)

独身の人がいるため、いかに結婚してもらうのかがポイントかと思う。以前、市がお見合いイベントをされていたと認識しており、良い取組であると考える。その結果を資料に載せていただきたい。また、どのような取組をして結果どうなったのかを、失敗した結果でもよいから、結果を共有いただければと思う。

(委員)

過去に結婚相談を実施しようという話があったが、実現ができなかった。市内で結婚相談を始めると、恥ずかしいから出てこないため、3市1町で広域により実施すべきではないかという提案は過去にした。結果的に、今はどうかわからないが、民間に委託をしたが、うまくいかなかったと聞

いている。結婚支援をもっとすべきではないか。

(会長)

平成 28 年度に市の予算 0 円でイベントを実施した。その時は 10 組くらい結婚した。わけあり飲み会を実施し、40 代、50 代を集めたこともあった。伊豆半島に移住した人を集めたイベントも開催し、延べ 100 人くらいの参加があった。結局このようなきっかけがないといけないと考える。

後は、結婚支援に関するこを子育ての施策に記載するのか、地域づくりに記載するのかという問題もある。子育てに入れると強制的なものになる。

すべての重点目標は人が関連すると理解している。

(委員)

今回策定する計画は市の計画であるため、オリジナリティを出すべきと考える。子育ての前の話で、少子化の話をどうするのかについて、伊豆市の方向性をしっかりと記載した方が良いと考える。

(会長)

今の意見に対して、事務局はどのように考えているか。

(事務局)

子育ての内容のみの記載となっており、少子化対策の内容は入っていない。持ち帰り、検討する。

(委員)

縦割りではなく、全てに連動することでもあるため、一層のこと、テーマに入れ込むなどして目指していくかないと考える。30 年先、40 年先を見据えて、考えないと伊豆市はなくなると考える。

(会長)

少子化対策について、事務局で書き足すなど、事務局で検討いただきたい。

安全安心に移る。

(委員)

社協で災害を対応している。災害死者 0 の目標は良い。しかし、誰を助けるのかがポイント。自分自身の命を最優先した際に、障がい者や高齢者など、逃げられない人をどうするのかが課題である。どのような考え方で災害死者 0 を実現するのかが総合計画としてできていない。

過去に自主避難ができない人をどのように助けるのかを考えてほしい旨の依頼があったが断った。民生委員へ頼むとしても無理がある。災害後の復興に関しては、元気な人がやらないと困る。障がい者や高齢者など、逃げられない人に対して、どのような対応をしてくのかがわからっていないような気がする。

(委員)

家族で住んでいると、対応策を話し合えるが、一人暮らしの方への対策は必要である。日頃からどの地域にどのような人が住んでいるのかをデータ化していくことが大切かと考える。

また、外国人の労働者も増えてきている中、今後のこととも考え、その方たちをどのようにサポートしていくのかを記載していく必要があるのではないか。

(委員)

外国人に対する防災対策やリスク対応策は必要であると考える。純日本人の人口が減ってきていく中、外国人は増えている統計が出ており、地域においても同じようなことが言えると考えるため、どのように対応していくのかが重要となる。

建設業に従事しているが、例えば、能登半島や熊本の地震などの大規模災害が発生する中で、壮

大な目標を本当に掲げてよいのかと思う。目標として掲げることは良いが、本当に〇を目指すのか。現在、建設業に従事する外国人も減少し、高齢化も進んでいる。また、公共事業の発注額も減っているため、建設業自体の屋台舟を維持することが大変難しくなってきている。これにより、重機の維持も難しくなってきており、重機を操作する若者もいなくなっている。今の若者はお金よりも休みを優先する。昭和の時代の若者は現場に来たが、平成、令和の若者が何かあったときに来てくれるのかわからない。自分の家族を守ることが優先になり、地域を守るという意識にならないのではないか。

本当の課題はどこにあるのか着眼し、防災力を高める内容にしないと、計画は機能しないと考える。自助、共助もあるが、地域づくり協議会、地域の町内会などが一人暮らしの高齢者を守ることについて、本当に機能するのか、というところに着眼しないと、絵に描いた餅になる。

(委員)

災害が起きた後のことを考えるべきかと考える。炊き出しをする人の高齢化が進んでいる。炊き出しメンバーはいつも同じで、誰かに助けてもらわないといけないような人が炊き出しをやっている。災害後の対策も記載すべきではないか。日赤ボランティアの方法もあるが、仕事をしているとボランティア参加も難しくなるため、学生に参画いただくななどのことも必要ではないか。

土木の担い手が少なく、道路の復旧ができないと復興はできない。このため、安全確保ができれば部活をやっている学生に手伝ってもらうなどの対応も必要ではないか。

(会長)

防災士の資格を持っている。災害の内容によって、対応が変わってくる。住民の意識変革も必要。市役所の職員も地域に住んでいる。地域との連携は必要かと考える。理想・理念としては〇を掲げていきたいと考える。

水害も起きないとは言えない。建設業の話もあったが、経験がない人に関与してもらうと2次災害が起きることもある。

今回の議論で書き足すものがあれば書き足し、次回議論をしたい。

それでは重点目標3に移る。

本日、観光協会長が欠席である。意見のメモをいただいているため、紹介する。

その他、意見はいかがか。

(委員)

アンケート結果を見ると、仕事がないという結果が出ているが、仕事がないわけではないとは思う。求人サイトをみると、エリアが広すぎて地域を限定できず、仕事を探すのが大変である印象を持っている。近隣自治体との連携によるマッチングイベントに関して、良い取組であると考える。

(会長)

伊豆南部に金融機関の支店があり、その支店へ転勤命令が出た際、行きたくないという理由で退職された話も聞いている。伊豆市は恵まれている方だとは思っているがなかなかである。

(副会長)

9izuの施設の前に求人情報も貼ってあり、仕事はないわけではなく、職種は限られるだけである。移住者も仕事がないと移住ができない。仕事の条件を求めるには、様々な仕事の紹介もしている。最近は農業をしたい方も増えてきており、募集があれば紹介をしている。

仕事があることを発信していくことはよいと考える。コロナ以降テレワークの方も増え、国の補助金を活用して仕事を持ったまま移住されている方もいる。

方向性としては計画に記載のとおりで、企業誘致を進めること、農林水産業をやりたい方もいる。伊豆の国市ではトマトやいちご農家になる取組が進んでいる。農林水産業とのマッチングをするような方向性があれば、細かい施策の中で対応ができると考える。

(委員)

後継者不足に対応する施策があることは嬉しい。また、事業継承の内容もよいと考える。雇用のマッチングも必要である。鉄鋼はなかなか選択されないため、これを見て反省しているところはあるが、選んでもらえるような場づくりも意識していきたい。

外国人雇用について、個人的にはハードルが高いため、外国人雇用に向けた支援があれば、政策の中で出てきてもよいかも知れない。

(会長)

市内では農業、林業のみならず、製造業が多い。製造業の事業承継は進んでいると考える。

商工会の立場として話をすると、今期は廃業が多く、特にこぼれ廃業が多い。多様な職種で廃業がある。現在、事業承継ができる環境の企業は少なく、もっと早く手を打つべきと考え、商工会が動いているところである。

観光については、別の委員会で観光税の導入の検討をしている。全国で観光税の導入が進んでいる。市においては、2028年以降の導入をする。と市長から聞いている。観光税の使い道についても基本方針を作っていく、総合計画との整合性を図っていく必要があると考える。加筆できる点があれば、加筆してほしい。

(委員)

人口増加に連動してくると考えるが、伊豆の環境を求めて農業をしたい人はいると考える。農業をやりたい人にとって、農業は農地がない、技術がない、住む場所がない、売り先がないなど、ないないづくしである。地域において暖かく見守り、地域の方が技術を教えてくれるような取組や、売り先の斡旋など、行政、民間、地域でそれぞれ対応していくような取組の記載があつてもよいのではないかと考える。少なくとも、独り立ちには5年10年かかる。3年くらいで資金が尽きる閑門があるため、これらを踏まえた検討が必要かと考える。

(委員)

私有林を購入したい旨の問い合わせがある。目的を聞くと、ウッドチップを作ったり、バイオマス燃料にしたいなどと回答があるが、私有林に対して現在、市でマッチングする仕組みはあるか。

(産業部)

マッチングシステムはない。個別相談をいただければ、情報共有などはできる。

(委員)

山を借りたい際、どうすればよいかという仕組みがなかったため、市と相談して進めたいと考える。再生可能エネルギーの活用などであれば紹介したり、探したり、行政との話し合いをしたりなどして、進めていきたいと考えるが、もしマッチングシステムのようなものがあればよかったですと思った。

(委員)

わさびは水を流すため、水道事業者がいないと成り立たない部分がある。ライフラインを守ってくれるような業者や有資格者が最近減ってきてている。このことから、学生の時代からそのような仕事があることを知らせる機会の創出が必要ではないか。産業を守っていく観点からも、各学生が持つ勉強以外で活かせる強みと仕事をマッチングさせる仕組みを子育てや教育にもつながるが地

域産業にあればよいのではないか。

(会長)

設備は教える学校が少ないため、社会で学んでいく必要があると聞いている。林業も山を切った後の処理も考えるべきである。需要と供給のバランスが大切。大手が入ってくることにより、一極集中が起こり、地元事業者の仕事がなくなることもある。

次の重点目標4に進む。

(委員)

伊豆市は空き家が多いと聞くが、活用できる空き家が少ないと理解している。昔、外国人向けの料理教室を開催したが、古民家などを探したが、場所がなかった。場所があったとしても値段が高い。計画に空き家の活用方法を提案とあるが、使いたい人はいるため、具体的な取組をしてほしい。

(会長)

空き家はないことはない。貸してくれる空き家や売ってくれる空き家は少ない。別荘地の空き物件については、管理費がかかるため、相続を受けた者は売りに出すことが多く、値段は安い。

(委員)

年に数回借りるために数万円かかる。空き家の管理をする代わりに空き家を簡単に活用できるよう、個人的にはマッチングさせてくれる仕組みがあってもよいと考える。

(会長)

地域づくり協議会が各地区にできあがっているため、その中の事務でできなくもないかもしれない。

(委員)

地域づくり協議会は地域のことに精通しているため、空き家の情報も把握しており、所有者とも顔見知りであることが多いため、空き家の活用などの相談は市よりも地域づくり協議会に相談してもらった方が、話が進みやすくなるかもしれない。

(委員)

不動産もしている。空き家を維持する人が伊豆市にいない状況となっている。解体費用にお金がかかることが一番のネックと考えている。これはすぐに解決できる問題ではない。空き家については、活用または解体の2つしかないと考える。

市においても冊子の発行などにより、空き家対策に力を入れていると考えるが、その対策が空き家を持っている人へのモチベーションにつながっていないと考えるため、別対策が必要ではないか。

かなり古い空き家もあり、景観が損なわれ、企業が進出してこなかったり、若い女性に関しては損なわれた景観に囲まれた地域で過ごすよりも都会で過ごした方が良いよねという思考に繋がり、負のスパイラルになっていると考える。空き家対策は人口減少の引き金になっていると考えるため、良い案はないが、有効な施策が必要と考える。これが解決できれば、環境美化、産業発展や人口問題にも寄与すると考える。併せて、耕作放棄地も農地法と絡めて解決していく必要があると考える。

(会長)

家を建てるときは、建築確認申請はいるが、耐震工事などのリフォームの際は建築確認はいるのか。

最近はリフォームも厳しくなり、申請方式になると聞いている。あまり良い条件になっていない。この状況を踏まえて、助成金の交付など、対策を考えいかなければならないと考える。

(委員)

空き家や耕作放棄地の解消方法として、不動産を相続すると納税者が変わるために、特に相続放棄をされた場合は利活用されるのかなど、今後のあり方をアンケートで聞けば、今後の対策も検討できるのではないか。

(会長)

リサーチが今後も必要と考える。

(委員)

文面は素晴らしい。皆さん 의견を全て盛り込むと、間口が広がってしまい、制限がないと、まとめるのが大変になるのではないかと考える。素晴らしいご意見はあるが、実際はやっていかなければならぬが、どのように載せていくのかが難しいと考える。

(会長)

計画に記載する内容は目標であるため、夢を語るべきと考える。

(委員)

施策2 快適な公共空間について、伊豆市は公園が少ない。牧之郷は市の中で一番人口が増えている地域であるが、昔より公園は少なくなっている。タウンミーティングの時に市長と公園が少ない件について話をしたが、近隣のリバーサイドパークがあるとの案内も受けた。しかし、様々な規模で歩いて気軽にいける公園が必要ではないか。遊具の維持管理も大変であるとは思うが、遊べる良い環境の公園を増やしてほしいと考える。

(会長)

学童に子どもが収まらないことから、牧之郷の公民館を活用して、子どもが集う居場所を作る予定であり、冬休みにはオープンできると考えている。

最後の重点目標に移る。

(委員)

これから人口が減少し、職員の確保も難しくなるため、オンライン化と行政DXの推進は必須である。計画にも記載があるため積極的に進めていってほしい。

また、開かれた地域づくりの推進において、地域づくり協議会などのプレーヤーがいないことが現在、課題と考える。お母さんと話すときも、こども食堂をやってもいいけど、一緒にやってくれるお母さんがいない、プレーヤーがいないと話されていた。移住してきた人の方が熱心にされているイメージがある。地域を残すためにも担い手の確保は重要であると考える。

(会長)

全てに共通することは人である。観光も行政もすべて人である。人材育成も必要と考える。

(委員)

公共施設は適正化ではなく、スリム化ではないか。公共施設を持っていると費用がかかる。合併して無駄な公共施設が多すぎる。廃止すると文句が出るのはしょうがないが、今後の行政運営のためにも公共施設は捨てていってほしい。また、タダでよいから手放し、固定資産税が入るようにしてもよいのではないか。しっかり費用対効果を考えた対策を記載する方がよいと考える。

(委員)

ふるさと納税額は多い方か。ふるさと納税人気トップ10を見ると、海産物や米が多いと思うが、伊豆市は海産物が多いため人気か。

(事務局)

令和6年度は13億8,000万円で県内ベスト10に入っている。寄付の9割以上が高級旅館の宿泊券となっており、現在は一部委託により返礼品を増やしており、返礼品は300種類程度ある。

(会長)

伊豆市は全国でもトップクラス。伊豆の国では、トマトやイチゴがあり、イチゴは儲かっていると聞く。

個人的なお願いではあるが、何かあれば役所に言えばいいというような、行政頼りにならないよう、市民も自分のことを自分でするような、市民の自立性を高めるようにしないと職員も減っていくため、大変になる。その中で地域づくり協議会があるため、協議会において地域で地域のことをやる方向で進めていく必要があると考える。

(委員)

総合計画全体の話になるが、やることがたくさんあり、具体的な施策の実施は大変になってくると考える。アンケートで若い女性が住み続けたくないという結果が出ている。市においては子どもを産む若い女性がいないことが課題となっており、若い女性の流出を阻止すれば、子育てにつながると考える。このことから、若い女性の方が住み続けない理由を把握するアンケートの実施予定はあるか。

伊豆市一番良いところは、ホスピタリティの高さであると考えるが、この言葉が抜けている。地域愛や、観光客や外国人を受け入れるホスピタリティに長けているまちづくりが流出を食い止めたり、関係人口の増加に寄与するのではないかと考える。もう少し、基本計画の中に、ホスピタリティを伸ばせるような施策があっても良いのではないか。

(会長)

アンケートの予定はあるか。

(事務局)

総合計画では細かい内容を記載する予定はない。人口流出を阻止する手段として必要であればアンケートなどを実施していきたいと考える。また、アンケートの実施に関する内容を計画に記載する予定もない。

(会長)

時間も押しているが、その他、意見はないか。

次回も基本計画について、協議をしたいと考える。

4. 閉会

次回は9月19日、同会場で開催する。

以上